

平成 19 年度 第 2 回 西木地域審議会会議録

一、日 時 平成 19 年 11 月 20 日 (火) 午後 2 時

一、場 所 「西木温泉ふれあいプラザクリオン」

一、会議に出席した委員

布 谷 政 男	小 林 清 司	武 藤 晟 平	小 林 康次郎
橋 本 典 子	佐々木 茂 徳	鈴 木 順 子	赤 倉 羊 子
鈴 木 重 蔵	浅 利 重富美	橋 本 米 彦	

一、会議を欠席した委員

大 蔵 定 臣 門 脇 藤 子 藤 井 けい子

一、会議に出席した職員

西木地域センター長	門 脇 主 彦
総務部次長兼企画政策課長	倉 橋 典 夫
地域振興課長	大 澤 清
企画政策課主査	阿 部 聡
総合窓口課総務班長	浅 利 喜一郎
総合窓口課総務班主査	戸 村 和 子

一、会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 定住人口 3 万人の確保と 交流人口 1,000 万人の具体的方策について

(2) 廃校舎の利活用について

4 閉 会

一、総合窓口浅利班長が開会宣言する。

(午後 2 時)

一、会長あいさつ 皆様、ご苦労さまです。昨日は真っ白に今日はまた悪天候で、委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、第 2 回西木地域審議会にご出席いただきありがとうございます。今回の案件も前回同様、定住人口 3 万人の確保と交流人口 1 0 0 0 万人の具体的方策についての意見を求めるという諮問でございます。答申は今回と次回の第

3回審議会を経てまとめることになると思います。よろしくお
申しあげましてあいさつとします。議事に入りますが、総務部次長
から説明を兼ねて一言お願いします。

- 一、総務部次長 皆さん、ご苦労さまです。今回は先に会長さんよりお話ありまし
たように、諮問、答申という形でお願いしてあります。あらかじめ
皆様に参考資料として配付してあります資料について簡単に説明し
ます。

資料に基づいて説明。

- 一、会 長 議事に入る前に2～3お諮りしたいことがございますので、よろ
しくお願いします。議案審議時間が、今回と合わせて2回で時間
にして4時間位ですのでこれで答申まで持っていくのは難しいと思
いますので、定住人口問題と交流人口問題を2つに分けて、部会を作
って意見を集約し、答申の段階まで持っていきたいと思いますが、
この件について何かご意見ございませんか。時間の関係上お諮りし
ます。

- 一、委 員 異議なし

- 一、会 長 (1)定住人口部会
(2)交流人口1000万人部会
の2つに分けたいと思いますが、如何でしょうか。

- 一、委 員 異議なし

- 一、会 長 それでは二つにして進めます。

(1)定住人口部会委員名

小林 清司	大蔵 定臣	橋本 典子	鈴木 順子
赤倉 羊子	鈴木 重蔵	橋本 米彦	

(2)交流人口1000万人部会委員名

布谷 政男	武藤 晟平	小林康次郎	佐々木茂徳
門脇 藤子	藤井けい子	浅利重富美	

部 会 (午後2時53分)

(1) 定住人口3万人の確保について

部 会 長 鈴 木 重 蔵

副 部 会 長 橋 本 典 子

出 席 委 員 小 林 清 司 橋 本 典 子 鈴 木 順 子

赤 倉 羊 子 鈴 木 重 蔵 橋 本 米 彦

欠 席 委 員 大 蔵 定 臣

出 席 職 員 西 木 地 域 セ ン タ ー 長 門 脇 主 彦

総 務 部 企 画 政 策 課 主 査 阿 部 聡

西 木 総 合 窓 口 課 班 長 浅 利 喜 一 郎

一、議 事

一、鈴木部会長 副部会長を橋本典子委員にお願いします。

一、鈴木部会長 この部会で与えられた任務を皆さんの協力を得ながら、進めていきたいと思っておりますので、交流人口と咬み合う部分が多々あると思っておりますが、定住ということで、検討していかなければならないということで、大いに皆さんから意見を出していただきたいと思っております。

資料に目を通していただいていることと思っておりますが、その中で感じたこと、日頃考えていることを出していただきたいと思っております。

一、小林(清)委員 自分の家の廻り近所でも空き家が増えてきている現実を分析してみると、安定した仕事がないことが一番の原因だとは思う。

一、鈴木部会長 前回も仕事が無いという話が出ておりましたが、自分の子供も出て行って、呼び戻したいけれども、自分の慣れた仕事を辞めて来るとなると、抵抗があるらしい。

一、小林(清)委員 参考までですが、昨日岩手の金ヶ崎の関東自動車に見学に行って、3千人が働いているところで、マークXを作っているところでしたが、東北にもああいう企業が来るというのはうらやましいと思ってきた。水沢まで1時間半くらいの時間なので、部品工場でもいいので、秋田に進出してほしいと思った。工場長の話では、ウラジオストクに工場を持ちたいということで、その際には、秋田港から輸出することになるので、秋田の協力も得られたいという話でした。

一、鈴木委員 やはり仕事場だと思う。地元からよそで働くとなると1時間以上は通勤しなければならないので、地元を誘致工場というのは無理なんではないでしょうか。

地元で若い人が残れる環境があれば、資格が無くてもできる仕事があればいいんですが、今は何でも資格なので。

一、赤倉委員 先ほど空き家の説明がありましたが、9軒ほどあって、定住を希

望した方が、3人あった話でしたが、そういう方はどういうルートで、此処に住んでみたいと思ったんでしょうか。

一、阿部主査

詳しくは解らないんですが、こちらに関係のある方なのかもしれませんし、単に興味があって秋田に来たいと思ったのか。

一、門脇センター長

直接担当していないのであれなんですけど、空き家の件じゃなかったんですが、こちらの出身の方で、土地がほしい方はありました。

一、赤倉委員

結局栃の木の方なんかも前に住んでいて、定年になってこちらに住んでみたいという感じで、来ている方もいますけれども、そういう形かなと思いましたがけれども。

グリーンツーリズムで3日間の体験学習があったんですが、その中の方にも住んでみたいという方はいなかったものんでしょうか。

一、門脇センター長

来た方の中ではないなかったようです。

一、鈴木委員

わくわくマーケットに寄った方で、良いところですから住んでみたいなあとは言うんですけども、季節の良いときに来て、冬を体験していないので、大丈夫かなあと思う。今回来た方にも冬を体験していただいた方がいいんじゃないかと思う。

一、阿部主査

只今の赤倉委員の質問で、1人は秋田市の方で、もう1人は県外の方で田沢の物件を希望されているということで、その理由としては、玉川温泉が近いということで希望されているという内容でした。

一、小林(清)委員

ちょっと余談になるかもしれませんが、役場の方々は、わらび座の方と話をしていると思いますが、あの方々は、九州とか大阪とかのよその方がほとんどですが、その方々は、車を持って会社勤めをしてみたいという方と、此処が好きで来ているので、交流をして色々話をしてみれば良いんじゃないかと思う。ある方は、家族みんな来て、農業もしている方もいるようです。

一、橋本副部長

定住というのは、難しいと思う。前からいる方は懐かしさとかあるんですけど、秋田県として、定住ということで、2地域居住とかありましたよね。そういう面では、季節の良いときに来てくれて、冬の間は、市町村が管理をしてあげるといようなことが出来れば、可能性が開けるんじゃないかと思う。たいていの方が、定年してからだと思しますので、まるっきりの定住というのは厳しいかなと思う。

一、赤倉委員

結論から言えば、働く場所かなあ。

一、橋本副部長

上桧木内の比内沢の方は、まだ続いていますか。

一、鈴木委員

埼玉の方ですが、1週間から10日来てます。

一、橋本(米)委員

仕事がないのが、若い人がいなくなる原因だと思う。若くなくて

も40歳代の人でも、仕事がないんです。働く場所が西木にないので、とても暮らせる場所にはないと思う。そうすると若い人は出稼ぎに行くか、向こうで定職を探すかになっている。若い人が出て行って、年寄りが田舎にいるとなると、向こうに呼んでしまう。年寄りでも自分のことは自分でするんですが、雪がなければ良いんですが、雪が大変なもんですから、体が持たないんです。息子に呼ばれると行くケースが多いんじゃないかと思う。そうすると空き家になる。こちらに来ようとする人は、定年にならないと来ない。空き家も上桧木内とか不便なところで探している。その方々も、冬になると大変だということで、出ていくと思うので、悪循環だと思う。

- 一、小林(清)委員 そういう方が来ると、生活扶助だとかが増える可能性はある。
- 一、橋本副部長 夢のような話ですが、冬期間だけ1人暮らしの人を西明寺にアパート的な物を建てて、春まで集団生活して、春になったらまた帰ればいいなあと思う。
- 一、鈴木委員 上桧木内でも、旧上桧木内小学校の校舎に集まって、誰か面倒を見てくれればなあと言う方もいる。
- 一、赤倉委員 白岩小学校の跡地も土地分譲して、わらび座の方が買って家を建てている。
- 一、鈴木部長 私も子供が出ていっているのでも、何とかして呼んで、一緒に住めば、家族を呼ぶことも定住につながる。
- 一、赤倉委員 桧木内の相内でも別荘みたいなのがありましたよね。
- 一、鈴木委員 2軒あって、1軒は夏場に来ている。
- 一、鈴木部長 この前1回目で、徐々に空き家バンクに申し出が出てくるとは思う。
- 一、赤倉委員 情報はどこに出しているか。
- 一、阿部主査 市のホームページに出している。あくまでも取り次ぎということをやっている。取り次ぎの母体があったので、3地区行っておりますが、徐々に広めていきたい。この間のスローライフモニターツアーでは、都会から来る人にとっては、こちらの物件が広すぎるという意見がありました。その点は、私たちの認識と違うのかなと思いました。
- 一、橋本副部長 こういう空き家情報というのは、全ての県でやっていますよね。その中で、秋田県の仙北市を選んでもらうというのは、大変難しいと思う。
- 一、鈴木部長 仕事がない関係で、少子化につながっていると思うし、全然関係ないとは言い切れないと思う。
- 一、小林(清)委員 現在の人口はどうなっている。

- 一、阿部主査 10月末で、31,699人です。合併してから938人減少している。
- 一、赤倉委員 観光客は如何ですか。
- 一、阿部主査 全体として、今年は良いようです。
- 一、門脇センター長 交流人口から見ると、国体という特別な事業があったので、良いようです。
- 一、小林(清)委員 市長やあなた方が頑張らないといけない。岩手にああいう企業が来るというのは政治力もあると思うが、決して日本海側より条件がよいとは思わない。昨日で、30センチ以上雪があった(金ヶ崎)。
- 一、橋本(米)委員 意見を書いても返事が返ってこない。
- 一、阿部主査 市の文書広報で、関連のある課に振り分けている。
- 一、橋本(米)委員 返事がないんです。
- 一、部会長 高齢化率が、うちの地域(上桧木内)は40%を超えたと思うが、空き家が見える。何とかしなければと考えているが、今年だって、死亡3に対し出生1の割合で、人口が減っている。
- 一、小林(清)委員 国道105号の改良を促進して、もっともっと交通量を増やして、内陸線もJRから引き取っていただいて、併せて観光路線にして行けば良くなると思う。
- また、道路情報について、46号線とか、341号線は情報として出るが、105号は出ないのが残念で、行政としても働きかけてほしい。
- 観光なり、行事なり、情報の伝達というものが大切と思う。
- 一、鈴木委員 夏はこっち。冬はあっちという感じにすれば。
- 一、鈴木部会長 夏山、冬里という感じにすればよいと思う。夏だけであれば自給自足で生活する人がいると思う。
- 一、橋本副部会長 仙北市では、こんな大きい目玉があってこんなに子供を育てやすいんだという、何か目玉を持ってもらえれば良いのではないかと。秋田県は、全国1の学力だし、仙北市は、少人数指導が徹底できるし、子育てのし易い環境があれば、若い人の定住につながるのではないかと思う。
- 一、橋本(米)委員 総合病院的な大きい病院を作って、先生も日本で5本の指に入る先生を連れてきて、そういう病院を作ったら患者さんも増えるだろうし、医療の問題も解決するんじゃないかと思う。
- これは春先のテレビで見たんですが、実際に行われている例で、それが活性化につながると思う。
- 一、鈴木委員 よそから来た人の話だと、病院が心配という人がいる。世故世故

しなくて住みやすいんだけど、病院がねという。

- 一、小林(清)委員 庁舎を論ずるよりもまずは病院だと思う。
- 一、橋本(米)委員 病院に行けるのに30分以内で手当が出来るようにしていただきたい。
- 一、小林(清)委員 ある先生の話だと、角館に行っても良いが、建物が良くなくてと言う話をする人もいたので、建物をよくして欲しい。
- 一、門脇センター長 前に上桧木内診療所を置いたわけですが、要するに患者さんが減って、施設を廃止してきたという経緯がある。
- 一、鈴木部会長 予定の時間ですので、次回もあるわけですが、本日の部会での大きな点を話たいと思います。
 - 1. 全体的に仕事場がない。
 - 2. 夏場は来て、冬に帰る、夏山・冬里でも良いんじゃないか。
 - 3. 秋田県の教育が素晴らしいということで、それに関連した目玉があればいい。
 - 4. 道路整備に関する事。
 - 5. 医療関係の整備。
 - 6. 高齢者雇用。

以上で今日の部会を閉じます。

(午後4時20分)

部会（午後2時53分）

（1） 交流人口1,000万人の具体的方策について

部会長 小林 康次郎

副部会長 浅利 重富美

出席委員 布谷 政男 武藤 晟平 佐々木 茂徳

欠席委員 藤井 けい子 門脇 藤子

出席職員 総務部次長兼企画政策課長 倉橋 典夫

地域振興課長 大澤 清

総合窓口課総務班主査 戸村 和子

一、議 事

一、小林部会長 副部会長を浅利重富美委員にお願いします。

一、小林部会長 交流人口1000万人を目標とする具体的方策で、感じていること、やるべき事がありましたら皆さんから意見を述べてもらいたい。

一、浅利副部会長 市当局に聞きますが、交流人口1000万人を旨とする具体的な内訳はあるか。また、旧町村単位で割合を決めているのか。あるとすればそれぞれの目標はきまっているか。

一、倉橋次長 10年後の目標が1000万人で、具体的に地区別にはない。参考として、全国で1000万人の観光客のくる所は金沢、伊東市、清水市、大津市、広島、箱根町、浦安市、京都、別府となっております。これからして1000万人は高い目標である。

一、浅利副部会長 具体的な目標としては、市が動かないと難しい。

一、小林部会長 西木の場合は、何か新しいイベントを作っていくと無理である。

一、浅利副部会長 西木単独では弱いのではないかと。角館、田沢湖は観光のネームバリューがあるので、角館・西木、田沢湖・西木と連携できる回路を考えるとよい。

一、武藤委員 五能線と連携したアピール、内陸線を含めた宣伝が必要である。3地域への内陸線からのアクセスも重要である。また、他市との連携をとりながら観光宣伝を考える。また、観光地の開拓が必要である。例えば五能線、内陸線を含めた観光ルートを見つける。松葉駅に鷹巣方面から結構観光客が見えるので、松葉駅に近いむらっこ物産館を宣伝していく必要がある。観光客は年配者が多いようです。年配者は時間とお金に余裕があるので年配者をターゲットにして進めたらいいと思う。

一、小林部会長 黙っていても何もできないので、できることから行動していかないと。

- 一、佐々木委員 カタクリの時期、駐車場をカタクリ園の地から離して、お祭り期間中シャトル、馬車などで移動したりイベントを盛り込んで考える。そのために駐車スペースの確保が必要である。また、祭り期間外の観光も考えてもいいと思う。
- 一、小林部会長 カタクリの会員で対策を考え、市にも応援を求めたらいい。
- 一、布谷委員 105号線の利用者、車の台数は調べているものか。
- 一、武藤委員 9月23日交通安全でシートベルト着用調査時朝7時～8時のデータでは227台でした。
- 一、布谷委員 観光客は天候に左右されるけど、それを解消するために天気の悪いときに、廃校舎を利用して客を呼んだらどうか。
- 一、浅利副部会長 交流人口1000万人の説明は解りました。田沢湖は自然を観光に角館は歴史的建造物を観光に、西木は何もない。西木は自然の食を楽しめるという方向でもっていった方がよい。施設もあることですし、特色のある直売所それも含めて考えるとよい。
- 一、小林部会長 角館にも、そば屋が増えている。
- 一、浅利副部会長 稲庭うどん屋のようである。稲川町の支店のようですが、何れ飽きられるのではないか。そこで西木が頑張ればいい。

10分間休憩

- 一、小林部会長 続いて意見を出してもらいたいが、西木はこういったところです。助成金を頂いて、商工会主催のイベントの戸沢氏コースがたいへん喜ばれた。
- 一、佐々木委員 戸沢氏にきてくれた観光客には、歴史を掘り起こし宣伝してはどうか。また、大河ドラマにしてもらおうと、どっと観光客が増えるのでそこに食を加えていくといいのではないか。
- 一、小林部会長 地域が一丸となって、足引っ張りせず頑張っていかないとだめだ。桜、祭りは角館、西木は現在あるものを掘り起こして頑張るしかない。
- 一、浅利副会部長 むらっこの売り上げが、微妙に伸びている。
- 一、布谷委員 田沢湖いちの影響があると思ったが。
- 一、浅利副会部長 客層が違う。道の駅にあるものは置かない。店員に付いたお客さんがいる。田沢湖の観光協会と提携し、お客さんを引っ張るよう計画すればよい。
- 一、大澤課長 観光協会の合併でなく、市の観光連盟とか協議会を立ち上げたほうがよい。
- 一、浅利副部会長 市の観光の窓口を一本化したほうがよい。

- 一、佐々木委員 行政で観光を一本化にして、交流人口1000万人の目標達成出来るようにしたらよい。
- 一、小林部会長 何か事業を起こすにしても補助金を充てにせず、真剣に頑張ったほうが成功する。充てにしないで頑張ったほうがいい。角館の地域審議会では、どういう話がでているか。
- 一、倉橋次長 角館では分けないで一本で話し合いしたが、1000万の方は具体的に出ていない。田沢湖では、知られていない資源があるのではないか。それを掘り起こす。また、現在のスキー場などを活性化したらどうか。という話がでている。抱返りは、2年間休んでも宣伝したら、予想外の観光客で駐車場、トイレが足りないほどだった。
- 一、小林部会長 西木も市を上げて、小山寺・下田線を開拓し、まずは道路整備し観光客を呼ぶ方向で行ったらどうか。
- 一、佐々木委員 鎌足沢、山など、再開発する話もあるが、自然を壊して欲しくない。漁業組合、部落の人たち、他の団体で反対して景観を保っていくべきである。
- 一、小林部会長 これまでの話し合いで田沢湖とカタクリを連携し、西木を經由してもらおう。五能線と連携して、駅からのアクセスを考え観光客を増やす。カタクリの駐車場を整備する等の案がでました。
- 一、倉橋次長 参考までに、東北新幹線の青森の開業により、平成23年までに東京青森間を3時間ちょっとでいけるようになる。それに合わせて「はやて」の改良による高速化でJR東日本管内で秋田新幹線が一番遅くなる。「こまち」も先を伸ばすなど改良して時間短縮するが、「はやて」の改良より遅れるので、その間観光客が、減少するのではないかとわれている。そこで、青森から秋田にお客さんを呼ぶことを考えて、内陸線を利用してきてもらいたいが、現実には内陸線の運転士が不足である。観光客は増えているが、平日のお客さんさんが減っているなどの問題点がある。
- 一、小林部会長 時間になりましたので今日はこれで閉会します。

(午後4時20分)